

平成 30 年度(2018 年度) 第1回吹田市青少年問題協議会会議録(要旨)

開催日	平成31年1月28日(月)	開催時刻	午後2時～3時30分
場 所	子育て青少年拠点夢つながり未来館 2階 会議室		
出席者	赤尾会長、川上副会長、伊藤委員、後藤委員、村上委員、西委員、山本委員		
欠席者	玉置委員		
事務局	中野児童部長、木戸地域教育部長、前田青少年室長(吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館副館長)、門田家庭児童相談課長、中井指導室参事、杉本青少年活動サポートプラザ所長、西田青少年室参事、釜江青少年室主任、藤井青少年室係員、今川青少年室係員、岩雲青少年活動サポートプラザ相談員		
傍聴者	無し		
案 件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 新任委員の紹介</li> <li>2 児童虐待について(事務局)</li> <li>3 いじめの現状について</li> <li>4 青少年相談の状況について</li> <li>5 その他</li> </ol>		
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・吹田市青少年問題協議会委員名簿</li> <li>・平成 29 年度児童相談所での児童虐待相談対応件数</li> <li>・吹田市児童虐待防止ネットワーク会議資料</li> <li>・子ども・若者相談の推移</li> <li>・いじめに関する状況報告について</li> </ul>		
事務局	<p>定刻が参りましたので、「青少年問題協議会」を始めさせていただきます。</p> <p>議事に入ります前に、前回の開催以降に、新たに委員に選任されました方をご紹介させていただきます。吹田警察署 伊藤美幸(いとう みゆき)様の後任といたしまして吹田警察署生活安全課長の伊藤(いとう)委員、社会教育委員の永井(ながい)様の後任といたしまして、社会教育委員の後藤(ごとう)委員でございます。</p> <p><b>【伊藤委員、後藤委員 あいさつ】</b></p>		
事務局	<p>続きまして、本日ご出席いただいております、会長及び委員の皆様を私の方からご紹介させていただきます。</p> <p><b>【委員紹介】</b></p>		
事務局	<p>続きまして、本日、会議に出席しております職員を紹介いたします。</p> <p><b>【職員紹介】</b></p>		
事務局	<p>それでは、ただ今からは、会長に進行をお願いしたいと存じます。赤尾会長よろしくお願いいいたします。</p>		
会長	<p><b>【会長あいさつ】</b></p>		

本日の傍聴希望者の確認をさせていただきます。傍聴希望者はいらっしゃいますか。

事務局 本日は傍聴希望者はいらっしゃいません。

会長 それでは、本日の会議の資料について事務局から説明をお願いします。

事務局 【配布資料の説明】

会長 それでは、案件 1 児童虐待について、ご説明をお願いいたします。

家庭児童相談課長 【資料説明】

会長 ありがとうございます。ただ今、家庭児童相談課課長から、吹田市における児童虐待の現況についてご説明いただきましたが、委員の皆様、何かご質問ございませんか。

A 委員 この数字を見る限り、表面化していない虐待はまだまだあると思うし、疑いがある時点で通告するという方法がわからない方もいると思います。可能性や疑いの程度でもという話でしたが、一般的にはなかなか勇気がないと思います。そういう場合にとりあえずハードルをもう少し下げて、もう一つ段階があれば言いやすいと思いました。

家庭児童相談課長 そういったことをしている団体はあまり聞きませんが、チャイルドラインは子供の相談を直接聞くということを組織的にやっています。あとは全国の相談ダイヤル 189 が平成 27 年にできて、少し相談件数が増えていると聞いています。そういったところから広げていきたい。

A 委員 受け皿としてもっとハードルの低いところが地域の中にあれば、もっと市民としていろいろな情報が入ると思うので、今あるところを生かすということだけではなく、そういった機関を作ることがを要望します。

副会長 地域の身近なところでは、民生児童委員さんや主任児童委員さんが各地区・校区にいますので、日頃の会話の中で虐待が疑われるような話が出てきたら、学校等に話して支援を広げていけるのではないかと思います。情報交換をする中でその家庭の状況がわかることもありますし、近所の人から話が入ってくる場合もあると思います。地域の中では民生児童委員が活動しているので、その中で繋がりも出てくるのかなと思います。

A 委員 就学されている方でしたら学校の方でもよいと思いますが、乳幼児や異常に泣いている声を聞いたりする場合、とりあえずどこに言えばよいのでしょうか。

副会長 市役所もありますし、主任児童委員や民生児童委員がおり、主任児童委員は小学校区に一人はいらっしゃいますし、民生児童委員さんは子供の見守りを生まれてから 3 歳児までのフォローをし、その中で検診の未受診者の掘り起しなどもされています。そういった地域

の中の繋がりが大切だと思います。

A 委員 匿名でも連絡してみたらよいということですね。

副会長 はい。

会長 主任児童委員さん、民生児童委員さんは、吹田市にどれくらいいらっしゃるのですか。

B 委員 400 人ほどいらっしゃると思います。

会長 そんなにたくさんいらっしゃるんですね。他にいかがでしょうか。

B 委員 泣き声が出たという110番通報を受けて警察官を派遣して、我々生活安全課は現場を必ず見に行きます。安全を確認し、殴られた、これは危ないとなれば通告しますので、まずは基本的には110番していただけたらと思います。ただ、連日泣いているからということで通報されない方もいらっしゃると思います。東京の事件などはそういったことがあったと思います。大阪市西区では姉妹が亡くなりました。虐待に対しては地域住民の方も非常に敏感になっています。泣き声通報で、ちょっとでも泣き声が聞こえたら通報があり、警察官が一晩中走り回っているということもありますが、子供のためですので、何か気づいたことがあれば110番か直接警察へご連絡いただければと思います。

A 委員 わかりました。安心しました。

会長 他にいかがでしょうか。今回吹田市の事例で学校からの通告が多いのですが、これに対してはいかがでしょうか。

C 委員 今話を聞かせていただいている、課題としては関係機関とうまく連携できないということですが、学校現場としては虐待事例があった場合に市の家庭児童相談課にも相談をしますが、通報は最終的には学校から子ども家庭センターへということになります。そして、一時保護されて戻ってきて、子ども家庭センターが面談をして帰って来た時に、学校としてはそこに家庭児童相談課も入っておられるので、どちらに対して状況を聞いたらよいのか、そのイニシアティブをお願いできたらと思います。教頭先生が窓口となっているのですが、どちらに対応してよいかという話を聞きますので。その辺りの連携の部分区市と子ども家庭センターとどのようにとったらよいか説明いただけたらありがたいです。

家庭児童相談課長 2ヶ所あるというのは、法律上児童相談所か市に通告することになってるので、並列的な機関として通告を受ける機関があるということです。その中で、一時保護に関しては子ども家庭センター(子家セン)が措置権を持っているので、家庭児童相談課としても子家セン経由の情報しかなくなるということになります。一時保護が解除されたら半年間は子家センのケースを見守るとするのが通常の運用になっているので、その間は子家センが情報を持っています。その後、学校の方で見守りをお願いしますという状況になったら、要対協の会議で決まり、指導室から学校現場に下りていくということになりますので、そういった連携できればと思います。

会長 他にいかがでしょうか。

D 委員 長い間ボランティアをやっているのですが、しつけか虐待かといった相談を受けたことがありません。親がどうしたら地域に入っていけるだろうかという質問は受けますが、そういった意味で参考になりました。

会長 初めて参加された F さんはいかがでしょうか。

F 委員 目黒の事件で思ったのは、香川と品川の児相との連携がうまくいかに起こったということですが、吹田でも起こらないとはかぎりません。横のつながりは今後どのようにされるのですか。

家庭児童相談課長 もともと児童相談所と市町村にも家庭児童相談課があつてそれぞれ移管する仕組みは前からあり、例えば豊中に転居となったら豊中の家庭児童相談担当部署に連絡を取っている。

そのケースが子家センでも持っているケースであれば池田の子家センに連絡されている。そういった連携ができていなかったのが今回の事件で、国は重い事案を持っている児童相談所に対してきちんと連携できるように具体的方法も含めて通知されているので、そこは一定改善されている。

吹田警察署 警察として昨年吹田市で 213 件の取り扱いがあり、そのうち身柄付き通告をしたのが 19 件、書類通告が 194 件となっている。大阪府警では約 8,900 件の取り扱いがある。年々増えているのは間違いなく、特に DV による心理的虐待が増えている。DV 自体も増えており、本当に危険なケースというのはごくわずかだが、小さい子供だと見えない部分があるので、慎重に安全確認を行っている。

吹田市内で身柄付き通告した内容は、小学生男児がパチンコ屋の前で長時間泣きながら立ち尽くしているのを店員が見つけたのか聞くと、母親が毎日のようにパチンコに行つてご飯も作らずにいるとということで身柄を通告したというケース。また深夜に警察署に若い女性が来て財布を落としたということで、いろいろ話を聞いていると市内で母子家庭で 3 歳の子供がいるということで、身柄通告。また、内縁の夫が暴行を加えたということで逮捕したケースもあった。

また、これは課題かなと考えているケースで、中学生の女の子を虐待の疑いがあったので保護し、その後親が面倒をちゃんとみるということで返したが、また家出をして保護し、通告して親の元に返すということが 3 回あった。

その間中学生の女の子は何をしているのかというと、お金を儲けている。そんな状況で保護が解除される。親は昼間働いていて、子供は不登校で学校も苦慮されていると聞いている。保護者の同意がないからという問題ではない。

こうしたケースが 2 件あり、今は大きな事件に巻き込まれたりはないが、もし何かあったらということで今後の課題だと思っている。

会長 貴重な情報をありがとうございました。今の問題は、一時保護をしてもまた親の元に戻す、親権の問題も絡んでいるということですが、門田課長いかがでしょうか。

家庭児童相談課長 措置権を持っていないのでコメントしにくいですが、難しい問題ではあると思います。子供を一旦分離介入で取り上げることで親子ともショックを受けるということもあるし、そもそも一時保護を子家センが簡単にするというものもないので、子供のリスクの回り方があって危険な事例について一時保護している、様子を見る中で親子が離れ離れになることは基本的にはよくないので、ある程度調整できたという認識の元で返しておられるのだと思います。何回も繰り返している場合には会議でも言ったりはするが、裁判などの可能性を考えてのことかもしれないし、難しい問題なのかなと思います。

会長 私もいろいろ調べていたのですが、一時保護が解除となって家に帰った後に被害を受けているので、その解決が大きな課題になっていると思います。  
次に、案件 2 その他 でございますが、事務局よろしく願いいたします。

事務局 その他といたしまして、いくつか報告をさせていただきます。まず、学校教育部指導室からいじめの現状について、よろしく願いします。

指導室 【資料説明】

会長 ありがとうございます。

事務局 では、吹田警察署から、虐待と特殊詐欺についてお話いただきます。

吹田警察署 虐待については先ほどお話ししました。吹田市の大きな問題として詐欺が非常に多い。昨年は大阪府下で一番被害が多くなっており、直接来られた方が 96 件、金額の総額は 4 億 6 千万円でした。我々としては、防犯教育を行って被害に会わないようにすることを進めている。また、警察や銀行業界を名乗ってキャッシュカードを使わせる詐欺が増えている。

大阪であった事案。明らかに 10 代の子がスーツを着て「銀行業界の者です」、もしくは「弁護士です」と言って電話をかけた相手のところへ行ってお金を取るということもあった。アルバイト感覚で募集し、子供を犯罪に使っている。子供には自分が犯罪に関わらない、おじいちゃんおばあちゃんはこれ以上被害にならないように注意してほしいなと思っている。

虐待に関しては、一報いただけたら現場に向かいます。DV やストーカーは警察がすべて対応しますし、すべてその情報は府県の警察にすべて報告します。虐待は通告してその後の結果が返ってこないののでどうなったかがわからないので、それもなんとか今後の課題として検討できれば、被害を防止できるのではないかと思います。

事務局 では最後に、青少年室から青少年相談の状況についてご報告お願いします。

青少年活動 【資料説明】

サポートプラザ所長

D 委員 ひきこもりや不登校やいじめは、本人が直接被害を受けて学校に行きたくないというふうに聞きましたが、家族が行くなど止めて学校に行かないという相談はないのですか。

家庭児童相談課長      どちらかといえば、虐待の方で学校に行かさないという話しになりがちです。

D 委員              親が学校に行かせないというケースはないのですか。

青少年活動サポートプラザ所長      当方には親が相談に来ることがほとんどですので、その中でわかる場合はありますが、最初からそういったケースというのはありません。

相談員              先ほど所長から報告がありましたように、いじめや虐待として上がってきたケースは 2 件で、緊急性の高いものが多く、虐待の場合はすぐに警察に通報するとか、いじめは義務教育の場合は教育センターにリファーする形で具体に対応されているところに紹介している。また、18 歳以上の方が相談に来られることが多くなっており、現在は発達障害や精神疾患、就労・進路などですが、話を聞いていくと小学校の時にいじめにあってそこから学校に行きづらくなったとか、それに付随してのトラウマや PTSD などもあり、人との関係性が難しくなるとはコミュニケーションが苦手、苦手だから就労するのにもハードルが高くなる。

また、発達障害が小さい時に分かれば療育などにも繋がったが、親も判断しかねて強く当たったりして心理的虐待に陥ったり、酷い場合はネグレクトとなり親子関係の悪化から大人になって発達障害の診断を受けるというケースもある。

かなり関係がこじれて、養育者がステップファミリーの元父親とか、本人からすると信頼できる大人がいないまま育ててきているので、相談に来てもらって信頼できる大人がいるというところから関係性を始めていくという状態。

私のケースで、「面前 DV」を受けてきた女の子で、父親から母親が暴力を受けて血だらけになり、ゴミ箱に頭を突っ込んで失神しているのを見てきた、それが当たり前だったという言葉が心に残っている。彼女は摂食障害でしたが、生計を立てられて家から離れられました。このように、早期発見、早期対策が一番必要だと実感しています。以上です。

会長                  ありがとうございます。大変重いケースを含めてご報告いただきました。  
本日の案件は以上になりますが、事務局から何かありますでしょうか。

事務局              本日はありがとうございます。事務局からは特にありませんが、未来館に来るのが初めての方がいらっしゃいましたら、2 階が相談のフロア、3 階が青少年が勉強したり交流するスペースとなっておりますので、お時間があればご覧頂けたらと思います。

会長                  それでは、長時間に渡りありがとうございます。これを持ちまして、終了とさせていただきます。